

教育長 様

校番 94 呉商業 高等学校長
(全日制 課程)

**「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る
学科等の特色を生かしたカリキュラム開発研究指定校
令和4年度 実施報告書**

1 学校の教育目標等

(1) 教育目標

多面的・多角的に見て考えて、世に活かす

(2) 育てたい生徒像及び学校として育成を目指す資質・能力

育てたい生徒像としては、①「三方よし」の理念を理解し、実践できる生徒、②夢や目標を実現させるために努力できる生徒、③課題に向き合い、より良く解決できる生徒を目指している。育成したい資質・能力は、1 集団の一員として他者を思いやり、周囲と協働できる力、2 主体的に学び、見通しをもってチャレンジできる力、3 広く情報を収集し、深く考え、課題を解決できる力を目指している。

(3) 学科等の特色

第2学年と第3学年は、「商業科」・「会計科」・「情報処理科」の3つの小学科を設置しており、各学科でそれぞれの専門的な科目を学ぶカリキュラムとなっている。今年度の第1学年より、「情報ビジネス科」への学科改編を行い、Society5.0時代に生き抜くために、求められる力（主体性、リーダーシップ、コミュニケーション力、創造力、探究心、課題解決力）を情報ビジネス科のカリキュラムを通して、育成できるようにしている。

3年間を通して呉商フェスタを柱に、販売実習やインターンシップ等の実践的・体験的な活動を通じた学びを行ってきたが、令和2年度から第1学年で「ビジネス基礎（ビジネス探究）」に取り組み、昨年度より第2学年で起業家精神を育成するプログラム「ビジネス探究EE」を実施している。そして今年度、2年間の学びを第3学年の「課題研究」に繋げ、地域の様々な課題解決や第2学年で考えたビジネスプランの内容を実現可能にしていくための探究活動を行っている。課題解決のためのビジネスプランを考えていくことを通して、課題発見力・解決力、情報収集力・活用力、データ分析力・活用力、協働力、論理的思考力、価値創造力、表現力といった力を身に付け、未来に向けて自分らしく社会に参画していく生徒の育成を目指している。

2 研究の概要

(1) 学科等の特色を生かしたカリキュラム開発の重点目標

- 1 「ビジネス基礎（ビジネス探究）」「ビジネス探究EE」「課題研究」において、段階的に資質・能力を育成するビジネス探究プログラムの開発を行う。今年度は「課題研究」において、地域の方々や広島大学と連携し、「自分ごと」として考え、確かな根拠に基づき論理的に思考しながら、新しい価値を創造する探究活動のカリキュラムを開発する。
- 2 目標・指導・評価が一体化した授業を行うために、「ビジネス基礎（ビジネス探究）」「ビジネス探究EE」「課題研究」で育成したい資質・能力を明確化する。そして、ルーブリックによる生徒の自己評価を指導方法の改善につなげていくように取り組む。
- 3 「ビジネス基礎（ビジネス探究）」「ビジネス探究EE」「課題研究」で育成したい資質・能力と各教科・科目との関連を示すカリキュラム・マップを作成する。

(2) 2年後の目指す学校の姿

- 1 集団の一員として、他者を思いやり、周囲と協働できる力を育成する。

- 2 主体的に学び、見直しをもってチャレンジできる力を育成する。
- 3 広く情報を収集し、深く考え、課題を解決できる力を育成する。

(3) 令和4年度の目標

ア アウトプット (活動指標)

- ・「課題研究」において、令和3年度から実施している地域の方々や大学と連携したカリキュラム開発について、年間を通して見直し・修正をする。
- ・「ビジネス基礎 (ビジネス探究)」「ビジネス探究E E」「課題研究」の学習内容と関連の深い教科と連携してカリキュラム・マップを作成する。
- ・「ビジネス基礎 (ビジネス探究)」「ビジネス探究E E」「課題研究」において、令和3年度に育成を目指した資質・能力についてルーブリックを修正し、教員による評価及び生徒自身による自己評価に活用し、生徒の学習状況を適切に評価する。
- ・Benesse コーポレーション「GPS-Academic」を「ビジネス基礎 (ビジネス探究)」「ビジネス探究E E」において、学習評価の一部として活用する。

イ アウトカム (成果目標)

- ・教科の枠を超えた活動を年2回実施している。
- ・「ビジネス基礎 (ビジネス探究)」「ビジネス探究E E」「課題研究」で育成したい資質・能力と関連の深い科目と連携して、カリキュラム・マップが作成できている。
- ・ルーブリックによる「ビジネス基礎 (ビジネス探究)」「ビジネス探究E E」「課題研究」の育成したい資質・能力の評価結果において、レベル3以上である生徒の割合が60%以上になっている。
- ・アンケートの結果、他者とコミュニケーションを通して問題解決に取り組む態度が身に付いている生徒の割合が、60%以上となっている。

(4) 令和4年度のカリキュラム開発の内容及び校内体制

ア カリキュラムの核とする教科・科目等名

第1学年は、商業「ビジネス基礎」4単位で通称【ビジネス探究】、第2学年は商業「ビジネス探究E E」、第3学年は商業「課題研究」をカリキュラムの核とする。

イ カリキュラム開発の概要

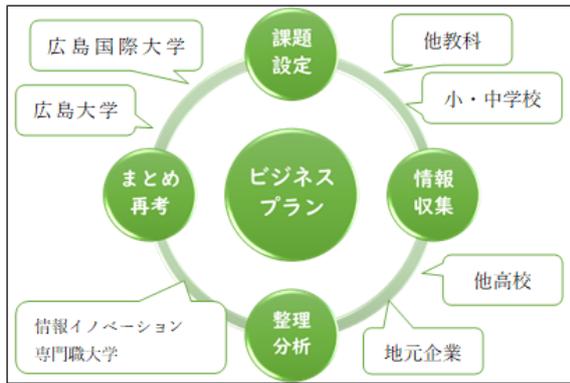
カリキュラム開発に先んじて、昨年度までに設定していた学校教育目標や目指す生徒像を、人事異動で半数以上変わった教職員にも分かりやすく、覚えやすい文に変更し、各教室に掲示した。コアカリキュラムのガイダンスや節目の際に、生徒と教職員の共通認識を図った。

学校教育目標や目指す生徒像の育成したい資質・能力の育成に向けては、「ビジネス基礎 (ビジネス探究)」「ビジネス探究E E」「課題研究」を系統的に学び、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、より探究の価値を高めて主体的な学習や資格取得に繋げていくために、「ビジネス探究プログラム」を通して育成したい資質・能力(表1)を重点的に育成するプログラム開発を行った。

(表1) 「ビジネス探究プログラム」育成したい資質・能力

科目	育成したい資質・能力		
	ビジネス基礎 (ビジネス探究)	表現力 (書く・話す)	協働力
ビジネス探究E E	独創的発想力	計画実行力	自己研鑽力
	意思決定力	適応力	転換力
	批判的思考力	コミュニケーション力	
課題研究	課題発見・解決力	企画設計力	論理的・思考力

具体的には、第1学年「ビジネス基礎 (ビジネス探究)」で商業を学ぶ意義や魅力を体感することにより社会の出来事を自分のこととして考えてビジネスの学習を行う。第2学年「ビジネス探究E E」では起業家精神 (アントレプレナーシップ) に必要な資質・能力の育成を目指している。また、PBL型学習を通して、Lean Canvasを作成し、校内でのクラスピッチ、学年ピッチを経て、*HYEC大会に出場している。



(図1) 探究サイクルと他者との関わり

第3学年「課題研究」において、第2学年で実施した「ビジネス探究E E」でのビジネスプランやグループで設定したテーマについて、地域で活躍されている方や地元企業、広島大学、広島国際大学、情報経営イノベーション専門職大学と連携して、より専門的なアドバイスをいただき、実社会を体感しながらビジネスプランの実現性を高めていけるように実施した。1月末には、学習成果発表会を実施し、ポスターセッションを行い、グループで考えたこと、得た結果、そこから学んだこと等を自分たちの言葉で伝え、質疑応答や意見交換を行うことができた。(図1)

さらに、教科横断的な学びを実現するために、合同研究授業において数学科の「数学A」と「ビジネス探究E E」においてマスタールーブリックの「課題発見・解決力」を身に付けることを目指した授業づくりを実施した。

*HYEC (Hiroshima Youth Entrepreneurship Challenge)は、広島県内の予選会で、上位2位がWYEC (世界大会)の本戦に出場する大会

ウ 校内体制

全教員がカリキュラム開発に参画していくために、対象の教科「商業」では、「ビジネス基礎 (ビジネス探究)」、「ビジネス探究E E」「課題研究」の教科担当者会議を時間割の中に組み込み、定期的に生徒の変容を確認しながらカリキュラム内容の確認・修正を行った。

さらに、学校全体では授業相互観察を行い、年3回のうち1回はコアカリキュラムの授業を参観し、商業科は普通科目を、普通科は商業科目を参観するように働きかけた。さらに、コアカリキュラムで実施する「プレゼンテーション大会」や「中間発表」等の節目では生徒の様子をMeet 配信し、コアカリキュラムの内容を理解する機会を設けることで協働体制を整えるように進めた。

(5) 学習評価

コアカリキュラムにおいて育成を目指す資質・能力を、「ビジネス基礎 (ビジネス探究)」では3点、「ビジネス探究E E」では2点、「課題研究」では4点に絞り(表2)レベル1～レベル4までのルーブリックを作成し、生徒と教員で共有し、年3回生徒の自己評価アンケートを実施した。

生徒の自己評価の状況を担当者会議で確認し、レベルが上がっていない項目について、改善方法を検討した。具体的には、「ビジネス探究E E」で転換力の数値が低いときは、多様な視点で考えることができていないのではないかと話し合い、奇抜なアイデアを考えるフェーズを振り返る時間を設けたり、生徒が理解しやすい事例を挙げて取り組んだ結果、22%ポイント上昇した。

(表2) 「ビジネス探究プログラム」育成したい資質・能力の評価項目

科目	育成したい資質・能力		
ビジネス基礎 (ビジネス探究)	表現力 (書く・話す)	協働力	多面的・多角的視点
ビジネス探究E E	意思決定力	転換力	
課題研究	課題発見力	課題解決力	論理的・思考力
	企画設計力		

民間テストの活用については、生徒の授業中の取組状況(第1学年については「主体的に学習に取り組む態度の評価」)を評価する際に、指導者の記録とGPS-Academicの客観的なデータを用いて評価を行った。さらに、GPS-Academicのデータを授業担当者等で検討したところ、第1学年については昨年度のデータと比較して、「批判的思考力」、「協働的」、「創造的思考力」が高く、第1学年の特徴が確認できた。

第2学年については、第1学年時のデータと比較して、「批判的思考力」と「協働的思考力」の上位層が増えており、系統的なプログラムを2年間実施した効果を確認することができた。

(6) カリキュラム評価

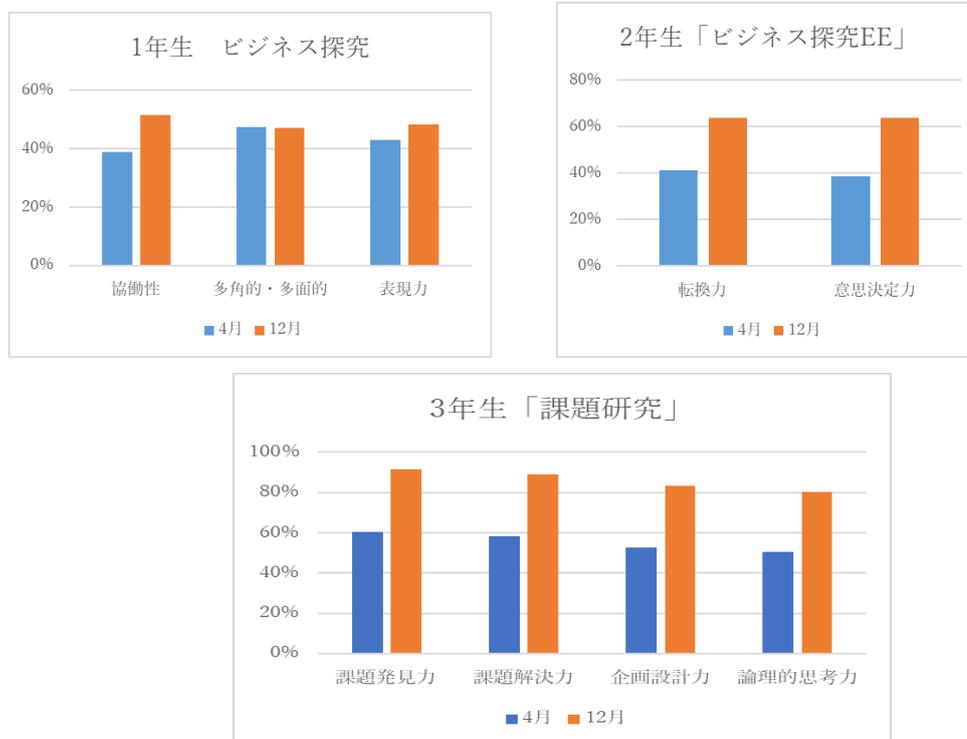
- 学校評価アンケートについては、年2回実施した。その結果を受けて、各分掌や各教科で分析して、次に向けての取組内容等を教科・学科主任会議、校務運営会議で共有した。

具体的には、「計画的に予習・授業・復習のサイクルを実行した」と答えた生徒は57%と低い数値だった。学習習慣を身に付けるために、商業科会で意見を出し合い、登校した生徒から商業科目の基本的問題を解いていく取り組みを行った。また、「授業では、コミュニケーションを取り、問題解決に取り組む態度が身に付いた」と答えた生徒が91%であった。探究学習のみならず他の教科でもグループで協働して発表する授業づくりが行われている結果である。

3 令和4年度の成果及び課題

(1) 成果

- 第1学年から第3学年までの「ビジネス探究プログラム」の完成年度であった。呉商業のコアカリキュラムとして3年間の系統的なカリキュラム開発ができた。
- 「ビジネス探究プログラム」において育成を目指す資質・能力の生徒による自己評価アンケートの結果(図2)について、第1学年から第3学年とも4月初より高い数値となっている。さらに、レベル3以上である生徒の割合は平均が69%以上の結果となった。特に第3学年については、4月と12月を比較すると全ての項目でレベル4が2倍も上昇した。このことは、3年間通して、答えのない問いに向き合い、仲間や学校外の方々の意見を基に、多角的・多面的な視点で考え続けてきた結果と捉えることができる。



(図2) 自己評価アンケートの結果における肯定的な数値(レベル3と4の合計値)

- 第3学年「課題研究」では、第2学年で考えたビジネスアイデア【OCR技術を活用したシャープペンシルの開発】を研究していた生徒が国公立大学の総合選抜入試においてその研究内容を題材にして合格した。さらに、1年間の学習成果発表会を終えての振り返りで、「大学でも引き続きこの内容を研究して、ぜひ、商品化を実現していきたい」と話していた。第2学年で考えていたビジネスアイデアを第3学年の7月までに探究サイクル(課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ)で実施し、7月以降は実験等を加えながら継続的に様々な視点で取り組むことができた結果であった。
- GPS-Academicの第2学年の結果については、「批判的思考力」と「協働的思考力」の上位が10%程度増えてきていることから、第1学年時から、答えのない問いと向き合い、仲間と協力して情報収集しながら考え続けている学習内容が有効であったと考える。

(2) 課題

- ・1月末に実施した学習成果発表会の振り返りで「生徒の問題解決手法の理解の差があると感じた。ファシリテートする側のロジカルシンキングやフレームワーク手法を知る必要がある」とご意見をいただいた。ファシリテートする側の教員が学び続け、ファシリテーション力を身に付けていくことが課題である。
- ・学校評価アンケートにおいて、「計画的に予習・授業・復習のサイクルを実行した」と答えた生徒は57%と低い数値である。来年度は学習支援アプリを導入する予定である。各教科でより効果的な活用方法を実施して、基本的な学習習慣を身に付けていくことが課題である。
- ・GPS-Academicの結果のうち、第1学年の「協働的」「創造的思考力」が前年度より低くなっている。「協働的」については、新型コロナウイルスの影響等により例年になく欠席者が多くグループ活動において継続的に根気よく取り組むことができなかつたことが要因として挙げられる。日常生活をきちんと指導していきながら探究活動を充実させることが課題である。また、「批判的思考力」については、物事をまとめたり、根拠を示したりする力が第1学年、第2学年ともに低い。情報を整理・分析し相手を説得できるようにまとめ・表現するためにも、教科横断的な学びの実現が必要である。

4 令和5年度の研究目標及び取組内容

(1) 令和5年度の研究目標

ア アウトプット（活動指標）

- ・「ビジネス基礎（ビジネス探究）」「ビジネス探究E E」「課題研究」の学習内容と関連の深い他教科1つと連携してマスタールーブリックの「課題発見・解決力」に関連する授業づくりを実施できている。
- ・「ビジネス基礎（ビジネス探究）」「ビジネス探究E E」「課題研究」において育成を目指す資質・能力についてルーブリックを修正・追加し、教員による評価及び生徒自身による自己評価に活用し、生徒の学習状況を適切に評価することができている。

イ アウトカム（成果目標）

- ・「ビジネス基礎（ビジネス探究）」「ビジネス探究E E」「課題研究」で育成したい資質・能力と関連の深い他教科1つと連携してマスタールーブリックの「課題発見・解決力」に関連する授業づくりを行い実施できた。
- ・ルーブリックによる「ビジネス基礎（ビジネス探究）」「ビジネス探究E E」「課題研究」において育成したい資質・能力のルーブリック評価結果において、レベル3以上である生徒の割合が70%以上になっている。
- ・アンケートの結果、他者とのコミュニケーションを通して問題解決に取り組む態度が身に付いている生徒の割合が70%以上となっている。

(2) 令和5年度のカリキュラム開発の内容及び校内体制

ア カリキュラム開発の概要

本校では、「ビジネス基礎（ビジネス探究）」「ビジネス探究E E」「課題研究」を核として、生徒が各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、より探究の質を高めて主体的な学習や資格取得に繋げていくために、(表3)を育成するカリキュラム開発を行う。

(表3) 「ビジネス探究プログラム」育成したい資質・能力

科目	育成したい資質・能力		
ビジネス基礎 (ビジネス探究)	表現力（書く・話す）	協働力	多面的・多角的視点
ビジネス探究E E	独創的発想力	計画実行力	自己研鑽力
	意思決定力	適応力	転換力
	批判的思考力	コミュニケーション力	
課題研究	課題発見・解決力	企画設計力	論理的・思考力

具体的には、第3学年「課題研究」において、第2学年で実施した「ビジネス探究E E」でのビジネスプランやグループで設定したテーマについて、地域で活躍されている方や地元企業、大学と連携して実社会を体感しながらインタビューし、アドバイスをいただきながらビジネスプランの実現性を高めていけるように実施する。さらに、第2学年「コアラボ」（学校設定科目）では、実社会や校内の販売実習で体験して学んだことを深めたり、「ビジネス探究E E」で理解度が低いUnitを補足していく学習を行ったり、起業して実際に活躍されている方の話を聞くなど、「ビジネス探究プログラム」をより充実させるためのカリキュラム開発を実施する。

イ 校内体制

全教員が参画してカリキュラム開発を行うために、教科担当者会議を時間割の中に組み込み、定期的に生徒の変容を確認しながらカリキュラム内容の確認・修正を行っていく。

第2学年「コアラボ」(学校設定科目)で「ビジネス探究EE」について深め、さらに、教科・学科主任会議では、「ビジネス基礎(ビジネス探究)」「ビジネス探究EE」「課題研究」に関連して取り組む内容を各教科で協議した内容を共有し、それを踏まえて、カリキュラム開発を進める。